

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 3 月 5 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471503122		
法人名	ゆうゆう株式会社		
事業所名	ゆうゆう神谷川グループホーム		
所在地	福山市新市町新市258-2		
	電話番号	0847-54-1855	
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 14 日	評価結果市町村受理日	平成 27 年 4 月 17 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 27年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

行事(食事会 外出 バーベキュー 親睦会 クリスマス会)など、積極的にとりくみ、ご利用者様、職員、家族様 地域の方々と楽しく過ごせるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員は「利用者に役割を持ってもらい明るく楽しく」をモットーに利用者の立場に立った支援に努めている。夏場に朝の散歩をされる方には一緒に散歩をし、率先して室内や外回りを掃除される利用者には見守りながら自由に働いてもらっている。入浴も座位が保てない方でも二人か時には三人で介助し浴槽につかってもらい、一人ひとりの生活習慣を大切に家庭と同じように暮らせるよう配慮している。利用者の身体状況は様々ではあるが外出する機会も多く、お弁当持参で海に遠出したり、利用者の要望を叶え「おでん屋」に行ったり、「懐石料理」を食べに出掛けることもあり、職員にとっても気分転換の時間となっている。管理者は利用者・家族との交流と職員の慰労を兼ねた食事会を催したり、地域の方にも声をかけ蕎麦を振る舞うなど数々のイベント事を企画実践している。利用者にとっては恒例の楽しみとなっている地域の夏祭りには併設の事業所と共に職員や看護師が役割を持った形で参加している。地域密着型サービス事業所としての役割を担えるよう地域交流の円滑化に努め、利用者が地域の中で安心して暮らせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り提示している。	法人理念と事業所理念を掲げ、事業所理念は利用者のニーズをベースに職員間で話し合い作成している。理念は共有フロアに掲示し、職員間で意見の相違があった時や、日々の反省を行う上での基準としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、災害訓練、お祭り、餅つきなどの地域行事に参加している。	地域の理解と協力のもと町内一斉溝掃除や、利用者と共に地域の一員として夏祭りや福祉祭りのイベントに参加し交流している。事業所合同の食事会は地域に案内を出し参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会活動や地域に向いて、認知症の勉強会等の講師派遣ができる事を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を実施し、意見やアドバイスを参考に活動につなげている。	各分野の関係者により2カ月毎開かれ、事業所の現状報告や勉強会を行っている。参加者からは質問があり、行政からは感染症などについての最新情報が伝えられる。又参加者に簡単なテストを楽しんでもらう等充実した内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者の方と意見交換をしている。	運営推進会議を通して関係を築いている。他の事業所も参加する包括主催の支所会議に週1回参加し、利用状況の説明や問題提起をし情報交換を行っている。クレーム報告や相談も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型介護サービス(介護予防サービス)指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを実施している。	身体拘束に関しては研修において業務に活かすようにしている。	身体拘束をしないを基本とし、会議の中で勉強したり年1回の研修を通し職員は熟知している。見守り強化で目配りをしっかり行っている。センサーマットや転落防止対策は就寝時のみ家族の了解のもとで行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待も勉強会をして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度については、わからない事も多々あるので、勉強していかなくてはならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときには、十分な時間をとり、納得のいく説明を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で意見があればだしていただき、運営に活かしている。	管理者はバーベキューなどの楽しいイベントを企画し家族との関係を深められるよう呼びかけ、意見が出し易い環境作りに努めている。2~3カ月毎の家族会や、運営推進会議でも意見を聞き取り、取り合えず現場で実践し不具合があれば改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで職員の率直な意見を引き出している。	チームワークを大切にする管理者の働き掛けで、職員とは日頃から悩みなども含め本音で話し合える関係が築かれている。職員の意見・提案は朝のミーティングや月毎の会議でディスカッションし改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を設け、一人一人が役割を持って働けるような環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人全体で職員のスキルアップに繋がる勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域主催のケア会議に参加し情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いをしっかりと聞いて、不安な事がないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に関しては、本人様を第一に考え、可能な限り、要望を取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め、その人にあったサービスが提供できるように、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごす一員としてお互い楽しく暮らせるような人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員 家族ともに協力しあう関係をつくり、本人様を支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、なじみの場所(神社等)に行ったりして、昔の記憶が途切れないように、心がけています。	利用者の要望で行きつけだった「おでん屋」に行ったり、馴染みの神社への参拝にも出掛けている。正月には家族と過ごせるよう帰宅してもらい、知人や親戚の訪問も受入れ大切な人との関係が途切れぬよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席などに気をつけ、それぞれが望まれる環境をなるべく実現しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、電話等でその後の様子をきいたり、困ったこと、相談などに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望、生活ペースを優先しそれに合わせた支援をしている。	利用者に選択肢を提示し体験してもらったり、意見を出された時は、とにかく実践し表情を確認しながら真意を理解する。ドライブ中や馴染みの場所に出掛けた時にも気持ちをj知ることが出来、利用者の立場に立ちケアに思いを反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の希望、生活を大切に、これまでの生活が継続できるように勤める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活を把握し、継続した生活ができるようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開いて、本人、家族の希望を聞き取り、それをプランに活かせるように努めている。	ケアマネが家族から情報を得てアセスメントを作りプランを作成し約2週間試行する。その後職員間で検討会議を開き本プランを作成し実施に至る。見直しは3ヶ月毎のモニタリングと状況によって行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践において気づきがあれば、すぐに伝えると同時に、申し送りノートにも記入をし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズがあればそれに応じたプランを考え柔軟な支援ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し住民やボランティアの人たちと協力しながら、本人を支えていくように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望にそった医療機関を選べるように支援しています。	かかりつけ医や歯科への受審、他科受審は基本家族対応となっているが、ほぼ通院同行している。協力医、協力歯科医から定期と必要時又緊急時には往診が受けられるような協力体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護共に情報を共有し、協力しながらご利用者様が適切な受診が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、地域連携室と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と話し合いをもち、書面にてサインをもらうようにしている。	看取り経験はないが終末期ケアについては契約時に家族にリスク説明をし、医療連携も整っている。重篤になった場合は対応の仕方を家族・医師間で承諾書を交わしてもらい、看護師も交えて検討している。職員は検討結果を周知取りこぼさないケアに繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて、法人内で研修を行いスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練や市主催の競技大会に参加して知識と技術の習得に努めている。	消防署指導で夜間想定での総合訓練を行っている。職員をシーツにくるんでの避難や利用者も参加する等実践さながらの訓練を実施している。毎月の漏電点検や年2回の消防署点検など防災意識は高い。又技術・知識の向上に向け市の競技大会にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修に参加し、人格尊重やプライバシー保護の勉強をしている。	法人研修やミーティング時の話し合いの中で勉強し、利用者の立場に立ちプライドを傷つけない 対応を行っている。汚れ物を部屋に隠してる時でも気付かれぬよう洗濯するなどの配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を可能な限り実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日課にあわせた、生活をなるべくできるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服や化粧が自由にできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いて、メニューを考えながら喜ばれる食事作りをしている。	多くの食材を使いバランスよい食事を提供し、職員と共に会話をしながら食べている。一部の利用者ではあるが食事の下ごしらえや食器洗い又行事食の巻きずしを巻いてもらう等出来る事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や体重を考え、食事作りや、栄養補助食品等を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをし、必要に応じて歯科医院に往診の来ていただき、歯の健康に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的排泄介助により自立支援に努めている。	日中は時間を決めてトイレ誘導をし、動作に無理がある方は二人介助によりトイレでの排泄支援を行っている。自力排泄に向けた立位訓練や、主治医に相談したり看護師に協力を求め支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをしり、食事や水分に気をつけ医師、看護師と連携をとりながら、ケアをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めつつも、希望や必要に応じて自由に入浴できるように、努めている。	週3回程度午後から入浴してもらう。座位が保てない方も2人介助か時に3人介助で浴槽につかって楽しんでもらっている。利用者の希望で二人で入ってもらう方もあり、それぞれのスタイルで入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大事にし、気持ちよく眠れる環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬においては担当者が把握し、医師、看護師と連携して管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事、興味のあることをしていただき、張りのある生活をめざしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の散歩や外出等で楽しみや、気分転換をして、明るい生活を心がけている。	利用者の希望で「おでん屋」や「懐石料理」の夕食支援を行ったり、お弁当持参で海(瀬戸田・内海町)を観に遠方にも出掛けている。夏場に朝散歩したり、毎日散歩する方もいる。家族も一緒に外出することもあり、職員にとっても気分転換の時間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理していますが、希望の品や買い物などできる限り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話や手紙などができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様にとって快適な空間で過ごせるように、努めている。	居室からはキッチン・トイレ利用者の部屋が見渡せ開放感があり、共用の場所は整理が行き届き清潔に保たれている。室内には季節行事のひな飾り植物・水槽で魚が飼われるなど、家庭的な雰囲気であまりよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのご利用者様が居心地よく暮らしていけるようなテーブルの配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、思い出の品などを準備していただき、家庭と変わらない環境作りに努めている。	個人のこだわりの家具や家族写真が持ち込まれ、職員手作りのプレゼントが飾られている。其々の利用者にとって使い勝手良く配置された部屋となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考えながらも、本人様が暮らしやすい環境作りに努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	食事、入浴、トイレ誘導等はきちんとできています。外出や行事などは頑張っていますが、一人では何もできないご利用者様への日常の関わりが難しい日もある。	一人では何もできないご利用者様の一日の時間の中で担当者が必ず時間を作り、関わりを持つようにする。	・ケアプランを朝のミーティングで読み上げ今日の行動計画を担当者が発表する。 夕方、勤務終了前に申し送りをし、その時に確認できていない場合には実行する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。